

37. 知の総合化

「総合的な学習の時間」の大きなねらいは、各教科の学習で得た知を総合化することであると考えられます。つまり、自ら学び、自ら考え、問題を解決する力などの「生きる力」の育成や学び方やものの見方や考え方の習得をねらって、各教科等で身に付けられた知識や技能を相互に関連付け、総合的に働くようにすることを目指していると言えます。

知の総合化とは

東京学芸大学教育学部附属大泉小学校では、「学習したものは、他の学習や生活、さらには自分の生き方に生かされなくてはならない。学習したものを単なる知識・理解にとどめず、他の学習や生活に生かそうとしたり、新たな問題を発見するために役立てたり、自分自身をよく振り返り、共に生きている人々と力を合わせてより良く生きていこうとするなどの生きる力を育てることが大切である」と述べている。

つまり、「知の総合化」とは、各教科等で得た知識や技能（内容知や方法知）などが、生活において総合的に働くようにすることである。学校で学ぶ知識などが生活者として働かなければ、「知の総合化」のねらいは実現されたことにはならないのである。

— 実践から —

生き物を育てる活動を考えてみよう。例えば、あさがおの栽培では、水の与え方や肥料のやり方、枯れそうになった時どうすればいいのかなどを、本で調べたり、人から聞いたりします。そして自分で試してみます（方法知）。あさがおの栽培を通して、<種植え→発芽→双葉→本葉→（成長）→開花→結実→枯死→種取り>といった一連の成長過程の中で、あさがおについて様々なことを学んでいきます（内容知）。

このような、学校で行う生き物を育てる学習が生かされ、自分の生活の中にも目を向け、道端に咲いている花の美しさに关心を寄せたり、枯れそうな花があると進んで水を与えてたりするなどの姿が見られようになります。